

SSTL

2020年5月号



かっぽジャーナル

地域活動支援センター農(あぐり)(さいたま市緑区)のお野菜をご注文下さった県職員の方へお届け!

大ベテランのYさんは各建物の場所がしっかり頭に入っているので迷いなくずんずん進みます!

お届け先へ着いたら大きな声で「かっぽですよーーー。お野菜届けに来ました!」とお声掛け。

〒336-0011 埼玉県さいたま市高砂 3-埼玉県庁内「福祉の店」運営協議会アンテナショップかって

営業時間 10 時から 16 時

16 時になったら閉店。お店 を閉めてみんなで一日の売 上を計算します。

「計算は苦手」な店番さんが 多いけれど、急がず焦らず間 違いの無いように電卓で計 算していきます。それが終わ ったら売上金を銀行に入金 して一日の仕事終わり!



振込口座(ゆうちょ) 00270-8-107736 埼玉県庁内「福祉の店」運営協議会

Email: antennashop_kappo@yahoo.co.jp

編集人・埼玉県庁内「福祉の店」運営協議会アンテナショップかっぽ さいたま市浦和区高砂 3-15-1

発行人・埼玉県障害者団体定期刊行物協会 川口市芝新町十五-九 アステール藤野一階 定価 100 円



かっぽ 25 周年によせて

埼玉県庁内「福祉の店」運営協議会 代表 小田原道弥

「かっぽ」が開店した 1997年。30 歳そこそこの僕は、社団法人埼玉障害者自立生活協会の事務局長をやらせていただいていた関係で、この運営協議会の代表も兼務することになり、以来、気づけば今年でもう 25 年。私も 55 歳になってしまいました。



そもそもこの店が始まりは1993年、埼玉障害者市民ネットワークの 県交渉でした。主に浦和市の団体から出された「重い障害がある人の雇 用が進まないのなら、せめて売店の設置を」との要望に対し、「身体障 害者福祉法に売店の設置は努力義務がある」と、それまで「場所がない」 「もうすぐ庁舎を建て替えるから」と難色を示してきた埼玉県から、運 営協. 議会設置を条件に突然 OK がでました。当初は他の県レベルの団 体と運営協議会を作る調整をすることだけで時が過ぎてしまい、ようや くお店の開店にこぎつけたのは4年後でした。

当時すでに市町村レベルでは障害者が働く売店や喫茶店はありましたが、県庁の庁内を利用したものは前例がなく、マスコミや全国の自治体や障害者団体からも注目され、問い合わせも多くありましたし、店を維持するため「かっぽフェスタ」の開催や自動販売機の設置、県からの職場体験事業の受託など、皆さんの協力でこれまでなんとか店を維持することができました。

しかし、一昨年からのコロナ禍で財政は急激に悪化してしまいました。



県の職員さんも在宅勤務で店の売り上げが大幅に落ち込むのと同時に、職場体験事業や、かっぽフェスタもできず、運営協議会という法人格を持たない組織のため、コロナ禍の助成金ももらえず、一部の方からの寄付金と借入金でようやく存続している状況です。

店の運営が厳しくなると、気持ちも不安になり「今、それぞれの地域で障害がある人の就労支援が行われるようになり「かっぽ」の役割は終わったのかも。」考えた時期もありました。でも、わざわざ障害がある人が集められ、一般に働く人と接する機会もなく、指導員や支援員に囲まれての働き方は私たちの目指すものではないと思います。

また、この店は県レベルの団体では珍しく、毎日障害のある人も働き、活動しています。この先、今は地域で障害福祉の事業運営や個別の支援に目が向いている人たちも、必ず行き詰まりや制度再編での揺り戻しが来るはずですし、この店が福祉の制度にどっぷりつかっていないからこそ、職員と利用者の関係ではない、具体的な「共に生きる」という部分に敏感になれることもあるはずです。

ぜひ! かっぽ総会にお越しください! 6月15日(水)

だからこそ、みなさんの知恵と力をお借りしてでも、この資金難を乗り越え、これからもこの店で「共に働く」を続けていきたいと、私はこの 25 周年目に改めて思い直しました。

来る6月15日(水)午後1時30分から、さいたま市岸町公民館で運営協議会の総会を行います。埼玉県障害者福祉推進課を来賓に、埼玉障害者自立生活協会、埼玉県身体障害者福祉協会の加盟団体の方や、店番団体の方が出席するのですが、参加は自由ですので、ぜひこのジャーナルを読んで下さった方にもご参加頂ければ幸いです。よろしくお願い致します。



開店25周年!!

い。ぽフェスタ

「アンテナショップ かっぽ」は障害者が働き、社会参加す る場として1997年に埼玉県庁第二庁舎1階にオープンした福祉 の店です!

県庁内「みどりの広場」

障害者施設の手作り品

- ●焼き菓子 ●野菜
- ・パン
- ●雑貨 など
- ●おせんべい

お得に買える商品がかるかも?? 各団体、工夫を凝らした商品でお待ち しております。



埼玉県内の美味しい一品

5/18(水) 小春日和(大宮区) 国産小麦と天然酵母を使ったベーグルを 販売!(ぺんぎん村ブースにて) 5/19(木) 増田商店(松伏町)

大人気!くずもち販売!(かっぽブースに て)

* どちらも数量限定となります。



密集を避けるため今年はスタンプラリー・ミニコンサー<mark>トは行いませ</mark>ん。が、かっぽブースに立ち寄って下 さった方には良いことあるかも!?

感染症予防対策のため、会場内での飲食は禁止とさせて頂きます。ご協力お願い致します。

協力:パルシステム埼玉 主催:埼玉県庁内「福祉の店」運営協議会

協賛:コカコーライーストジャパン(株)・(株)伊藤園浦和支店・

お問合わせ: 埼玉県庁内「福祉の店」アンテナショップ かっぽ」 Tel: 048-830-7788

かっぽ店番報告

「かっぽSOS!·存続の危機!」

アンテナショップかっぽは、総合県交渉のなかでの売店設置要望(言い出しっぺはぺんぎん村)から始まり、1996年に社会福祉法人埼玉県身体障害者福祉会と一般社団法人埼玉障害者自立協会が県庁内「福祉の店」運営協議会を発足し、翌97年に開店したものです。2001年には今ではお馴染みの年一度の「かっぽフェスタ」も始まりました。

また只の販売活動だけでなく、障害4団体が中心となった「埼玉障害者の就労をすすめる会」が働きかけ実現した県庁内職場実習の連絡窓口を務めたり、「県庁内職場体験事業」のコーディネート業務をしたりと、障害者の働く場の開拓の役割もしてきました。

しかし売上げで専従職員の給与をだすことはできず、様々な助成金で05年までやりくりし、06年から売上げ利益で独立採算となり、09年に自販機が設置され売上げが大幅アップ。10年から店番団体に交通費支給・店番手当増額となるが12年から売上げ減少(コンビニ開店・庁内各所に自販機設置が痛手に)。一時店番手当も休止。移動販売の方法(定点販売に)や売り場の拡大等自助努力も重ね、社団からの資金援助や個人や店番団体からの寄付等で何とか続けてこられました。それがコロナ禍もあり、3月決算では100万以上の赤

字、資金もほぼ底をつきました。普通の店 ならもう潰れています!



ペんぎん村は、店番団体の中でも地元ということもあり毎週木曜日に店番に入っており、店番の回数は一番多くなっています。ほとんどの団体は事業所を展開しておりその職員が支援者として当事者とともに店番に入っていますが、ペんぎん村はかっぽからの店番手当と皆さんのからの会費の中から有償ボランティア費と当番手当を支給してきました。当番に入っているメンバーにとっても、かっぽは仕事をする唯一の場であり社会参加の場になっているため、他の団体の当番参加者より存在意義は大きいのです。仕事をしてわずかでも

給料 (手当) をもらうことでの働く喜び・ 生活の張りを得る貴重な場となっている のです。潰すわけにはいきません。

かっぽの事務局運営会議に参加させて もらい、持続可能な対策を模索しています がなかなか良い方法はみつかりません。と にかく出来る事からやってみることに。 何と言っても県に支援・協力をしてもらう。 まだ利用可能な助成金を申請する。店番団 体や仕入れ先団体にカンパ要請(いうなれ ば関係者向けのクラウドファンディング) をする。具体的になったら皆さんにも協力 をお願いする事になると思います。

6月15日にかっぽの総会が予定され

SSTL 1984年8月24日第三種郵便物承認 ています。それまでには更なる対策案を出 す事ができることを願うばかりです。

ペンギン村 関 啓子(木曜店番担当)





かっぽが本当につぶれてしまいます。 皆さん、かっぽの運営にご協力ください

振込先:(郵貯)店番 029 当座 0107736

埼玉県庁内「福祉の店」運営協議会

段ボールを潰すしんいちさんを見つめ る菅野さん。「はさみ使った方がいい よ」と言ってはさみを取ってあげており ました。しんいちさんと一緒の日はい つもより兄貴肌な雰囲気が...。

そんな兄貴な菅野さんですが、本 日早朝に第二庁舎に現れ、職員専用 出入り口から入ろうとしたところ、警察 官に職務質問されたそうです。午前中 お店番をしていると、その時に居合わ せた警察の方が声を掛けに来て下さ いました。少々バツが悪そうな菅野さ んにお相手の方は「良かったです。お 仕事頑張ってくださいね!」と。

漢・菅野。本日もいろんな意味で頑張 っております!(2022/04/06)

の店はまだ福祉制度が充実していなかった 1997 年 4 月埼玉県庁第二庁舎 南側ロビーに開店しました。

公共の場にある店の特性を生かし、「地域で障害者が営んでいる生活を多 くの人に知らせること | 「障害者と健常者が共に生きる社会を一緒に考えてもらう きっかけにしていくこと|「障害者と健常者が共に働く店を運営していくこと|「障 害を持つ人と持たない人が、一緒にいる事を通して福祉や仕事、街づくりや自治体 の役割を問い直していくことしなどを目指して始まりました。

店から四半世紀経つ今、「地域で分け隔てられることなく」と、障害者 福祉も充実してきました。でも、本当にそうでしょうか?

障害を克服し何の支援もなく、仕事に合わせて働く労働の場か、地域の 人との付き合いもなく、特別な環境に置かれる福祉の場ばかりが多くなっています。 結局どちらを選択しても障害がある人の生活は、街の隅に追いやられていないでし ょうか。地域生活の実感もないまま、介護保険法や障害者総合支援法のサービスの 対象となってしまう障害を持つ人を多く見てきました。

かっぽは、「福祉制度の外にある」くらしやしごとの在り方を店を運営することを通 して、一緒の考えるきっかけを作っています。

जॉर

段は、福祉施設などにいる重い障害がある人が、電車、バスはもとより、 施設の車や移送サービスなど自前(じまえ)のさまざまな手段や制度を利

用しながら、日替わりで通ってきています。普段とは違う、県庁というフォーマル な場で働くための工夫や気持ちの変化があるようです。施設職員と利用者の関係で はない様々な軋轢や切磋琢磨も生まれています。 店の運営はとても厳しいです。

アンテナショップかっぽ

埼玉県庁内「福祉の店」運営協議会 〒336-0011 埼玉県さいたま市高砂 3-15-1 埼玉県庁第二庁舎 1 階

5 048-830-7788 振込口座(ゆうちょ) 00270-8-107736 Email:antennashop_kappo@yahoo.CO.jp

それでもこの店の「障害の有無 に関わらず共に働く | という経 験が、地域で働くすべての人に きっと役に立つと思っています。 それが「共に生きる地域を創造 する | ことにつながると信じて、 県庁が開いている日は毎日、こ の店を運営しています。

編集人・埼玉県庁内「福祉の店」運営協議会アンテナショップかっぽ(さいたま市浦和区高砂 3-15-1 発行人・埼玉県障害者団体定期刊行物協会 川口市芝新町十五-九 アステール藤野一階 定価 100円